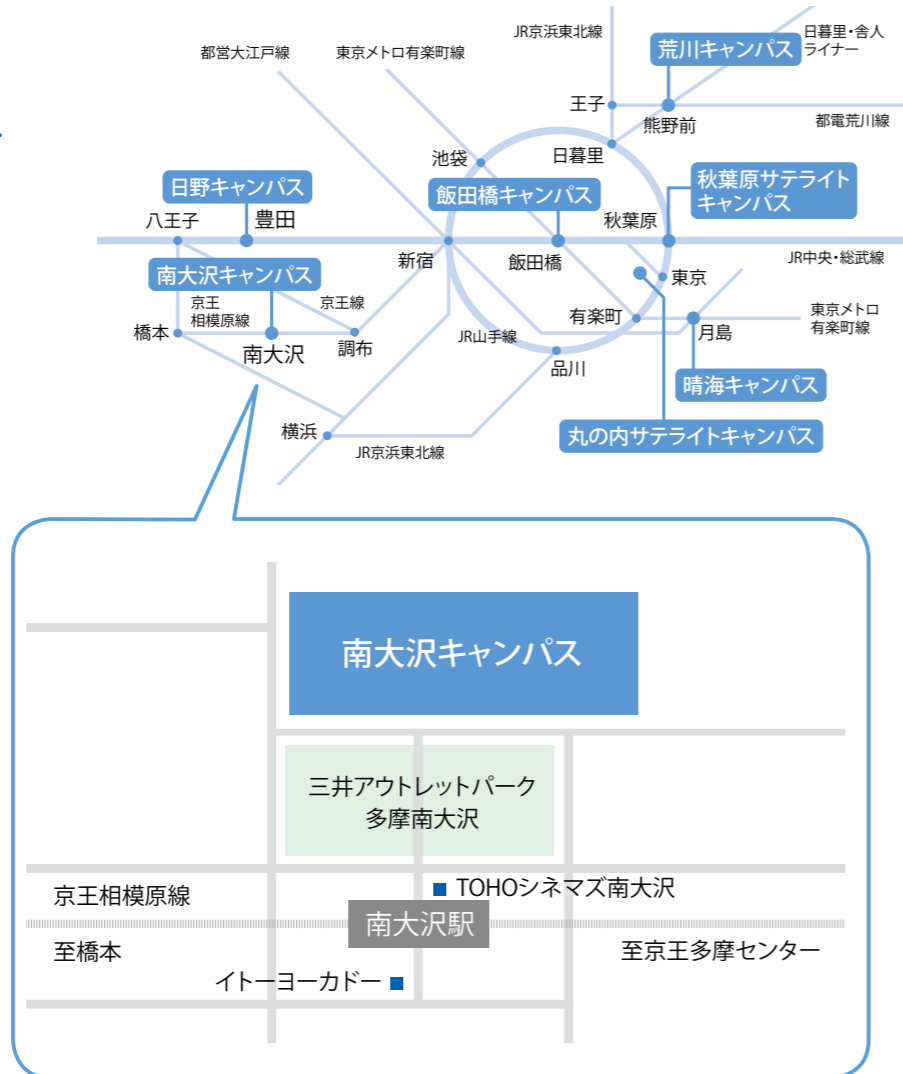


アクセス

首都大学東京 南大沢キャンパス

所在地

〒192-0397
東京都八王子市南大沢1-1
TEL:042-677-1111(代)



お問合せ



TMUプレミアム・カレッジ 首都大学東京管理部シニア教育係
TEL.042-677-1111(代) ※10:00~17:00(土・日・祝を除く)

TMUプレミアム 検索 www.pc.tmu.ac.jp



生涯学べる100歳大学

Tokyo Metropolitan University Premium College

TMU
プレミアム・カレッジ

カレッジ案内 2019

College Guide Book

まなびや

50歳からの新たな学舎

首都大学東京南大沢キャンパスに
来春2019年4月、開講

目次

50歳からの新たな学舎 首都大学東京南大沢キャンパスに 来春2019年4月、開講	P.1
TMUプレミアム・カレッジの特徴	P.2
ご挨拶 TMUプレミアム・カレッジ長、首都大学東京学長	P.4
TMUプレミアム・カレッジの教育(3つのポリシー) ～「求める学生像」等～	P.5
TMUプレミアム・カレッジのカリキュラムについて カリキュラムの概要	P.6
TMUプレミアム・カレッジのカリキュラムについて カリキュラムの構成	P.7
TMUプレミアム・カレッジのカリキュラムについて カリキュラムの内容(授業科目の概要)	P.8
ゼミナール担当教員(予定)からのメッセージ	P.16
TMUプレミアム・カレッジでの学生生活について	P.18
TMUプレミアム・カレッジでの過ごし方(イメージ)	P.21
キャンパス紹介(首都大学東京 南大沢キャンパス)	P.22
TMUプレミアム・カレッジ 年間スケジュール(予定)	P.24
入学選考について(2019年度TMUプレミアム・カレッジ生募集概要)	P.25
修了(卒業)要件、履修の上限、修了後について	P.26
Q & A (よくあるご質問・回答)	P.27
【参考】首都大学東京について	P.28
【参考】首都大学東京の生涯学習教育の取組	P.29



TMUプレミアム・カレッジは、様々な経験を積んだ、50歳以上のプレミアム世代※の方々に向けて、新しい学びのスタイルを提案します。

総合大学である首都大学東京が有する豊かな教育研究資源や、東京都との緊密な連携により、ほかでは経験できない学びと交流の場を提供します。

※プレミアム世代
人生100年時代を迎えようとする中、豊富な時間を自らの意思により活用し、行動することができる世代、より豊かで多様な生き方を過ごすことができる世代、それがこれからの50歳以上の方々と考えます。
50歳以上のプレミアム世代の皆さま方が、より豊かで充実した、活力ある「プレミアム」な暮らしを送るため、TMUプレミアム・カレッジが、一つの場、契機となれるよう、取組を進めてまいります。

TMUプレミアム・カレッジの概要

入学対象等 (概要)	募集人員	50名程度
	入学選考(概要)	小論文及び面接
	受講料(授業料)	20万円(入学料はなし) ※年額
学生生活	在学期間	1年間(週3～4日程度の通学を想定) (4月～翌年3月が在学期間) ※2年目も引き続きTMUプレミアム・カレッジで学び続けられる制度を構築中(TMUプレミアム・カレッジ専攻科(仮称))
	カリキュラム	「首都・東京をフィールドに学ぶ」をテーマに、 カレッジ専任の教授などによる独自のカリキュラムを提供

TMUプレミアム・カレッジの特徴

Special Features of the College

緑豊かで開放的な南大沢キャンパスでの学び

TMUプレミアム・カレッジは、首都大学東京の南大沢キャンパス(八王子市)に開講します。南大沢キャンパスの美しさ、開放感は、数多くある大学キャンパスの中でも特に優れていると評価されています。在学生の評判も非常に良く、「居るだけで癒される」といった声や、「遅くまで自習した後に見る、キャンパスの夜景も印象的」など、キャンパスの美しさは、このカレッジの大きな魅力と言えます。

「首都・東京をフィールドに学ぶ」をテーマとした、幅広い独自のカリキュラム

総合大学である首都大学東京の有する豊かで多様な教育研究資源を生かした、魅力あふれる授業を提供します。講義は、教育研究実績が極めて豊富なカレッジ専任の教授などによる、TMUプレミアム・カレッジ独自のカリキュラムです。具体的には、歴史や心理学などの文系科目に加え、世界自然遺産に登録されている小笠原の自然保全等の自然科学や、トンネルや橋梁等の土木工学を始めとする理系・文理融合科目、栄養学といった幅広い科目を、自ら選択して学ぶことができます。

全員がゼミナールに参加し、新たな仲間と学びや交流を深める

すべてのカレッジ生がゼミナールに参加します。カレッジでは、いずれかのゼミナールに所属し、経験豊富な担当教員の指導の下、新しい仲間との討議などにより、学びや交流を深めていきます。ゼミナールでは、グループ別の学習や複数のクラス合同の授業など、多様な学び方を組み合わせて、お互いの学びや交流が深まるよう、工夫を凝らします。年度末には、カレッジ生それぞれが、修了論文を作成して、仲間やご家族、学部生などの前でその成果を発表していただく予定です。

東京の持つあらゆる資源を活用した多彩なフィールドワーク

TMUプレミアム・カレッジは、教室での学びだけでなく、実際の「現場」で「五感で理解」することも大切にします。首都大学東京は、東京都が設置した唯一の公立大学法人であり、東京都庁各局と緊密な連携関係を築いています。その連携等に基づき、都庁が有する多様な施策の最前線を学びの場として活用します。水害を軽減するため、環状七号線の道路下に建設された巨大な地下調節池の視察や、東京の島の自然を学ぶ合宿形式の体験学習など、教室での理解をさらに深めるフィールドワークは、他ではなかなか経験できません。



学びを通じた首都大生等との異世代交流

TMUプレミアム・カレッジは、その独自のカリキュラムが大きな魅力ですが、加えて、首都大学東京の学部生対象に実施している科目について、一部受講できることも特徴として挙げられます。また、本カレッジで実施を予定している特別講演会(年に数回開催予定)は、首都大学東京の学部生や大学院生などにも公開する予定です。これらにより、カレッジ生が学部生などと肩を並べて学び、交流する機会を持つことができます。また、カレッジのアシスタントとして、学部生や大学院生を積極的に採用し、きめ細かい支援を実現するとともに、異世代交流も促進していきます。

快適で充実した学習環境

カレッジ生専用のラウンジ(P.18参照)を新たに整備し、カレッジ生が落ち着いて学び・交流することが可能な拠点を確保するほか、学食や、図書館、情報処理教室(パソコンルーム)の利用など学部生と同様に充実したキャンパスライフを送っていただくための環境を整備しています。個人メールアドレスの付与や、専用ロッカーの貸与に加え、首都大学東京オープンユニバーシティ(P.20参照)の会員資格を得ることができるなど、カレッジ生の多様な学習ニーズに応える、充実した学習環境を提供します。

修了生には、法に基づく「履修証明(certificate)」を授与

TMUプレミアム・カレッジのカリキュラムは、学校教育法に基づく体系的な学びの修了を証明する「履修証明プログラム」に位置付けられます。修了生には、同法に基づく「履修証明(certificate)」を授与します。

※なお、TMUプレミアム・カレッジは学校教育法第1条に基づく正規の大学ではないため、修了した場合も、学位を取得することはできません。

ご挨拶

Message

TMUプレミアム・カレッジ カレッジ長(予定) 挨拶

首都大学東京 学長特任補佐 西村 和夫



TMUプレミアム・カレッジは、様々な人生経験を積んだ50歳以上の方々が、その後の人生を、より豊かに充実したものとするための一つの契機、場となることを願い開講する、新たな「学び」と「交流」の拠点です。カレッジでは、豊富な経験と高い実績を有するカレッジ専任の教授陣が皆さまをお迎えます。また、施設面でも専用のラウンジやロッカーを新たに整備するなど、快適で充実した学生生活を送っていただくための準備を急ピッチで進めています。

TMUプレミアム・カレッジは、生涯現役社会の構築に向けた、首都大学東京の新たな挑戦です。来春入学する皆さまは、記念すべきTMUプレミアム・カレッジの第一期生となります。我々とともに新たな世界にチャレンジし、TMUプレミアム・カレッジの歴史をともに作り上げていきましょう。

首都大学東京 学長挨拶

首都大学東京 学長 上野 淳



首都大学東京の大きな魅力は、国内大学屈指の研究力と、その研究が質の高い大学教育に循環している豊かな教育研究資源です。TMUプレミアム・カレッジでは、その強みである本学の教育研究資源を十分に活用したカリキュラムを準備いたしました。また、東京都が設置する唯一の公立大学である強みを最大限発揮し、都庁が有する多様な行政の現場等をフィールドワークとして学べる講座も盛り込む予定です。

これまで、本学では、公開講座であるオープンユニバーシティを積極的に実施し、多くの受講者から評価のお声をいただいております。一方で、「公開講座だけでなく、もっと体系的に深く学びたい」、「発表や討論などより主体的に学びたい」といった熱心なご要望があったことも事実です。こうした実績や皆さまのお声も踏まえ、新たに開講するのがこのTMUプレミアム・カレッジです。生涯学習の資源として、こうした体系的な学びの場と、多彩な公開講座とともに、この質・規模で提供しているのは、首都大学東京以外にはないのではないかと自負しております。この機会に、是非、本学の誇る豊富な生涯学習の資源を体験していただければ、非常にうれしく思います。私も、授業担当教員として久々に登壇させていただきます。是非、一緒にカレッジで学びましょう。

TMUプレミアム・カレッジの教育(3つのポリシー) ～「求める学生像」等～

Policy

アドミッション・ポリシー(入学者の受入に関する方針)

TMUプレミアム・カレッジでは、次のような資質を有するカレッジ生を求めています。

求める学生像

1. 知的好奇心にあふれ、未知のものにチャレンジする人
2. 人とかかわりを大切にし、これまでの人生経験や本学での学びの成果を、社会に還元するなど、社会に貢献する人
3. 独創的な発想に富み個性豊かで、仲間の発想や個性を尊重できる人
4. 学びの意欲に富み、努力を惜しまない人

入学前までに備えているべき能力

1. 高等学校卒業程度の基礎的な学力と知識
2. 基礎的な言語能力に基づく思考力と表現力
3. 東京の都市課題や、一般教養分野に関する広い関心と強い探求心
4. とともに学ぶ仲間や学部生等を尊重し、学び合い、高め合うことのできる社会性・コミュニケーション能力

ディプロマ・ポリシー(修了証書授与の方針)

育成する人物像

TMUプレミアム・カレッジは、多様な人生経験などを有するカレッジ生に対し、人類共有の知的資産である学術研究に裏打ちされた専門分野の基本的な知識・理解及び幅広い教養を身に付けさせるとともに、普遍的に有用性を持つ能力を獲得させ、首都東京や地域などの諸課題の解決に貢献し、修了後、社会で更なる活躍が可能となる人材の育成を図る。

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

教育課程編成の基本的考え方

TMUプレミアム・カレッジは、「必修科目」、「選択科目」及び「アディショナル科目」により、学習分野の基本的な知識・理解、幅広い分野の教養及び普遍的に有用性を持つ能力を獲得・強化できるよう、各開講科目の履修により獲得できる能力を明示する。

※上記、3つのポリシーの詳細は、Webサイトをご参照ください。

カリキュラムの概要

カリキュラムのテーマ

「首都・東京をフィールドに学ぶ
～江戸・東京そしてTOKYOへ“伝統”と“革新”が共存する、
首都・東京の豊富な資源を最大限活用したカリキュラム～」

選択科目「プログラム科目群」を設け、「東京・都市」をテーマとした多様な科目を開講するなど、東京をフィールドに、その理解を多角的に深めることができるカリキュラム構成とするとともに、カレッジ生の幅広いニーズに応える多彩な「教養科目」等も学ぶことができる、充実したプログラムです。

主な特徴

独自の幅広いカリキュラム

TMUプレミアム・カレッジ専任の教授陣や首都大学東京の教員などにより、独自のカリキュラムを提供します。授業はそれぞれ内容や構成をカレッジ用に構築したものになっています。

多彩なフィールドワーク

教室内での講義に加え、現場で、「五感で理解」することを重視します。東京都などとの緊密な連携関係に基づき、都政の広大なフィールドを生かしたフィールドワークを、授業に積極的に盛り込んでいきます。

カリキュラムの基本情報

- 1年を「前期(4月～7月)」、「後期(10月～3月)」に分け、授業を実施します。
- 必修科目は全員が履修しますが、それ以外の科目(選択科目、アドイショナル科目)は、自身で希望の科目を選択し、事前に登録をした上で履修します。
- アドイショナル科目には、夏季休業中などに実施する「夏季・春季等集中講座」もあります。
- 修了するには、一定の要件(修了要件)があります。(詳細はP.26参照)



カリキュラムの構成

カリキュラムは、大きく「必修科目」、「選択科目」、「アドイショナル科目」の3つに分類されます。

「必修科目」はカレッジ生全員が履修する科目で、前期・後期のゼミナールなどにより構成されています。

「選択科目」は「プログラム科目群」と「教養科目群」という2つの分野で構成されます。それぞれ受講する科目を選んで履修するもので、一定以上の選択科目を履修することが修了要件となります。

「アドイショナル科目」は、履修が修了要件にはならないものの、首都大学東京の全学部生に開放されている全学共通科目を一部受講することができる「科目等履修」のほか、パソコン技術、その他夏季・春季等集中講座などバラエティに富んだ科目を、カレッジ生の選択により受講することができるものです。

カリキュラム構成概要

区分	概要	履修について
必修科目 (詳細 P.8 参照)	○ゼミナールのいずれかのクラスに所属し、カレッジ生同士や担当教員との意見交換や、修了論文の作成などを実施するとともに、情報リテラシーの基礎を学ぶ	○全科目履修することが修了の要件 ○年度末の成果発表会で研究成果を発表することを予定
選択科目 (詳細 P.8 ~ 参照)	プログラム科目群 ○「東京・都市」をキーワードとする科目群。歴史や都市基盤・自然など、様々な角度から「東京」への理解を深める科目群(3つのテーマに分かれる) 計11科目開設予定 ※今後、開設科目がさらに増える場合があります。	○4科目以上履修することが修了要件 ○カレッジ生が履修する科目を選択
	教養科目群 ○カレッジ生の幅広い関心に応えるべく、幅広い分野の教養科目を開設 計11科目開設予定 ※今後、開設科目がさらに増える場合があります。	○2科目以上履修することが修了要件 ○カレッジ生が履修する科目を選択
アドイショナル科目 (詳細 P.13 ~ 参照)	○基幹科目となる「必修科目」と「選択科目」の学びを補完し、より幅広い知識と教養を身に付けるための科目群 学部生対象の授業を一部履修可能 パソコン技術 / 実践英語 / 夏季・春季等集中講座 特別講演会(随時開催予定)	○修了要件外 ○カレッジ生が履修する科目を選択

カリキュラムの内容（授業科目の概要）

※教員所属は2018年9月現在のもので、講座名や内容・担当教員などは変更となることがあります。

※「講座名」横の○内は授業予定回数です。

必修科目

4回 情報リテラシー基礎

永井正洋(首都大学東京 大学教育センター教授)、伏木田稚子准教授、澄川靖信助教、藤吉正明准教授、島山久助教

首都大学東京においてコンピュータやネットワークシステムを利用するに当たって必須となる情報倫理、情報環境そしてeラーニングシステムなどについての基礎的な知識や概念を獲得し、首都大学東京が有する充実した情報環境を適切に使いこなせるようにすることを目標にする。

24回 前期ゼミナール及び後期ゼミナール

ゼミナール担当教員

- 前期ゼミナールでは、各ゼミナールのクラスにおいて、テーマに沿った調査検討・討議などにより、後期に作成する論文作成の基礎となる調査方法や発表方法を学ぶとともに、カレッジ生や担当教員等との活発な議論により、深い学びと相互の交流を深める。
- 後期ゼミナールでは、各自、研究テーマを定め、担当教員の指導の下、修了論文を作成する。
- そして、年度末には、TMUプレミアム・カレッジの学びの集大成として、その研究成果を「成果発表会」でカレッジの仲間や、ご家族、学部生などにプレゼンテーションすることを目標とする。

選択科目

-プログラム科目群

テーマ① 江戸・東京の「歴史」から学ぶ

12回 江戸・東京の歴史

山田昌久(首都大学東京 人文社会学部人文学科歴史学・考古学教室教授)

関東平野の地形的特徴からは、江戸の地は必ずしも都市空間として利用しやすい地ではなかった。この授業では、歴史学・考古学の教員3名で行い、①遺跡情報から、関東平野の地形形成の特徴や、江戸市街地の水道整備など江戸の基盤整備の様子②徳川家康から家光の時代になされた江戸のまちづくりの様子③明治以降に江戸から近代国家の都市としての変容構想や都市政策、といった内容を、それぞれの教員が4回ずつ受け持って講義していく。

12回 江戸・東京まちづくり物語

東秀紀(首都大学東京オープンユニバーシティ特任教授)

徳川家康入府以来430年の歴史を、「まちづくり」の視点から見る講座。家康、大岡忠相、長谷川平蔵、渋沢栄一、後藤新平ら「まちづくり」に携わった人々を「ものがたり」の中心に置き、その結果生まれた浮世絵や落語、食事、文学、建築、観光などの文化や庶民の姿を織り込んで、学際的・総合的に江戸・東京の歴史と現状、そして未来を探る。

12回 近世・江戸と近代・東京の建築と文化

山田幸正(首都大学東京 都市環境学部建築学科教授)

東京にのこる文化財建造物は近世および近代の建築遺構が中心である。それら江戸・東京の歴史的建造物を正しく観て、江戸・東京の建築文化を理解するための基礎知識の習得を目指す。古代・中世まで遡りながら、社寺や民家・町屋などの建築種別ごとに、また柱や梁、小屋組など建築部位ごとに、日本建築の様式・技法的な特徴などを概説する。

テーマ② 首都・東京を教材に「まち」を学ぶ

12回 都市を育み、活かす技術

横山勝英(首都大学東京 都市環境学部都市基盤環境学科教授)、酒井宏治准教授、荒井康裕准教授

人々が生活する上で水は欠かせないものであり、また、生活していれば必ず廃棄物が出る。そこで、河川流域における水循環・環境と上下水道システム、ごみ処理・リサイクルなどについて、具体的な整備例も挙げて講義を行う。併せて、水道水源林に係る現場でのフィールドワークも実施し、実際の施策現場での学び・体験も実施する。

12回 都市を造り、支えるインフラ

西村和夫(首都大学東京 学長特任補佐)、宇治公隆教授、村越潤教授

昨今の自然災害の増加などにより、都市及び周辺地域での「安全」、「安心」の確保により注目が集まっている。普段意識することが少ない都市環境を支えるインフラについて、コンクリート構造物、鋼橋と、それらを支える地盤と地下のトンネルについて、具体的な整備例なども挙げて講義を行う。

12回 多摩・島しょ地域の自然

可知直毅(首都大学東京 理学部生命科学科教授)ほか

多摩地域の多様な自然や、伊豆諸島・小笠原諸島など東京都の島しょ地域の自然について、歴史や文化的背景も含め、科学的な理解を深める。具体的には、首都大学東京が設置している小笠原研究施設を拠点とした、小笠原における生物進化や自然保全の研究成果などについて、最新の知見を踏まえた講義を実施する。多摩・島しょ地域の自然を体感するフィールドワークも盛り込む予定。

12回 多摩ニュータウン物語

上野淳(首都大学東京学長)、吉川徹教授、松本真澄助教

最初の入居が実現してから約50年が経過しようとしている多摩ニュータウンは、我が国最大のニュータウンである。居住者の高齢化、住宅ストックの老朽化などの影が忍び寄るが、その「いえと街の再生」は我が国の都市・住宅にとって普遍的課題と言える。多摩ニュータウンの来し方、将来をフィールドサーベイを交えながら議論する。

テーマ③ 首都の「都市課題」から学ぶ

12回 災害復興と防災まちづくり

市古太郎
(首都大学東京 都市環境学部都市政策科学科教授)

「防災」は地域や職場において、日常的に取り組まれているテーマである。東日本大震災、熊本地震を主対象に、その被害と避難生活、復旧復興の実態について多角的に理解し、また都内の各種防災活動の先進事例を基に「防災科学」の素養を身に付けていく。災害支援に関する専門家も交えながら、学術的かつ実践的に災害現象と防災活動について、深めていく。

12回 社会福祉学(仮)

オムニバス(予定)

本授業では、カレッジ修了後の活動の展開も視野に入れ、社会福祉学を体系的に学んでいく。現代の生活課題に関する理解を基に、社会福祉の法制度や、児童、高齢、障がい、貧困、地域など多様な人々の課題に対応する支援方法について、実践の現場を担うスタッフを講師に招きながらオムニバス形式で授業を展開する。

12回 都市の自然と里山

可知直毅(首都大学東京 理学部生命科学科教授)ほか

都市における自然や里山の価値とその実態について、生態学的な理解を深め、自然に対する多様な価値観が存在することを認識し、人と自然の共生について考察する。具体的には、植物学者である牧野富太郎博士の研究成果や、ヒートアイランド問題に関する都市の自然の有効性、フィールドワークによる緑地観察などを通じて都市の自然や里山への理解を多様な角度から深めていく。

調整中

都政課題
(フィールドワーク)

上野淳(首都大学東京学長)

本講座では、多様な行政のフィールドを抱える東京都の施策の最前線について、現場のフィールドワークを含めて実践的に学ぶ講座である。東京都の担当者(管理職等)などからの施策の説明と合わせて、ハード施設や試験研究施設をはじめとした現場の実態を、直接「見て、感じ」、幅広い分野を担う都政への理解を深めるとともに、他の選択科目などで学んだ知識や見識をより高めていくことを目的とする。授業は、河川管理施設(神田川・環状七号線地下調節池)や、下水道施設などの都市インフラを始めとして、廃棄物最終処分場や、試験研究機関(東京都健康長寿医療センター研究所)など、多様なフィールドを学びの場として実施する予定。

教養科目群

テーマ① 都市・社会・環境

12回 都市コミュニティ論

玉野和志
(首都大学東京 人文社会学部人間社会学科社会学教室教授)

都市とコミュニティをめぐる基本的な知識習得を前提に、とりわけ日本の地方自治行政と住民生活との関係の歴史的な変遷を題材に、自治と民主主義について考察する。都市と都市化に関する基礎的な知識と、日本における都市行政と市民社会との関連を、町内会など地域組織の変遷を通して理解し、市民としての活動意義を見出すことを目標とする。

12回 ボランティアの理論と実践(仮)

オムニバス(予定)

本授業では、ボランティアの理論と実践的な知識を身に付けることを目標とし、ボランティアに係る歴史的背景などの理論を踏まえ、各地域や災害現場、観光地などでのボランティアの実情等を、実際のボランティア体験なども交えて、実践的に学び、深めていく。

12回 「水」からみる江戸・東京の暮らしと文化

山田幸正(首都大学東京 都市環境学部建築学科教授)、市川憲良名誉教授、高道昌志助教

江戸・東京は、江戸川、墨田川、神田川などのほか、それらを網の目のようにつなぐ水路や雄大な濠による水運の発達した「水の都」である。江戸・東京における人々の暮らしや産業・生業にとって、「水」がどのような役割を果たしてきたのかについて、建築・都市における基本的な水の機能、都市の生活文化や景観・デザインとのかかわりあいなども含めて考えてみたい。

テーマ② 文化・芸術・歴史

12回 考古学で知る日本文化

山田昌久(首都大学東京 人文社会学部人文科学歴史学・考古学教室教授)

本講座では、旧石器時代から古代にかけて使用が始まった技術や文化を取り上げて、①人類の日本列島への到達の姿を探る(旧石器時代)、②村で暮らす生活の起源と里山利用のはじまり(縄文時代)、③稲作技術の導入と展開(弥生時代から古代)、④機織り技術の導入と展開、そして身分を示す身なり(弥生時代から古代)、⑤権力者による楽器使用の中国からの移転(雅楽楽器の変遷)、⑥食事文化の起源=箸・スプーン・フォークの使用、お茶碗食のはじまり、⑦住居の歴史石斧製作の家と鉄斧製作の家(縄文時代～古代)、⑧古墳時代から古代の耕地拡大と牛馬耕、⑨紙と筆の使用と戸籍・税管理のはじまり、などを講義していく。

12回 文芸の中の地域と社会

杉浦芳夫(首都大学東京 都市環境学部名誉教授)、東秀紀特任教授

文芸(文学・芸術)において、舞台としての都市、地域、社会は重要な意味を有している。本講座では、浮世絵、落語から小説、映画に至るまでの作品を取り上げ、近代の東西の文学などの理解を深めるとともに、地理学・都市学・建築学など学際的な視点から、その舞台としての地域を考えることにより、文芸作品などの複眼的な理解につなげていく。

12回 1964年 東京オリンピックの文化史

舛本直文(首都大学東京オープンユニバーシティ特任教授)

2020年東京大会を前に、1964年東京オリンピックという歴史的イベントのレガシーを文化的に振り返り、「オリンピズム」という、スポーツを通して若者の心身の調和のとれた育成という教育運動面と国際平和運動面という、オリンピックの有する2つの文化性を理解する。授業では、映像情報や競技施設のフィールドワークなどを基に、多角的な理解を促進する。

テーマ③ 生命・人間・健康

12回 食生活と健康

篠田粧子(首都大学東京オープンユニバーシティ身体健康栄養分野教授)

人生100年時代を健康に生きるために必要な栄養学の基礎知識を学ぶ。「たかが食べ物」と捉えがちであるが、食品は先端科学の産物でもある。世間には食品に関する情報が溢れているが、そうしたものに惑わされず、自ら必要な情報を選び取る科学的理解力と、栄養問題を多面的に捉える思考力の獲得を目指す。栄養素の働き、栄養素摂取と疾患の関係など、毎回テーマを定め、体系的な理解につなげていく。

12回 生活の心理学

渡部みさ(首都大学東京 学生サポートセンター教授)、村松健司教授、駒屋雄高准教授

本授業では、ライフサイクルの時々で生じる心の問題について、臨床心理学的見地から考えていく。まず臨床心理学の成り立ちと発展の歴史を学び、いくつかの技法について実習を交えてその基礎を学んでいく。加えて、ライフサイクルの時々心理的課題とその対処や支援について学ぶ。心理技法などの実習を実施することで、実践的な知識の獲得を目指す。

12回 生活機能障害概論

浅川康吉(首都大学東京 健康福祉学部理学療法学科教授)、河原加代子教授、小林隆司教授

老化や障害によって生じる生活機能障害を理解するための基礎知識と、生活機能障害を有する高齢者や障害者を支援するための実践的な知識の習得を目指す。具体的には、在宅療養者の支援や住環境の整備などについて、実技も交えながら、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるための支援方法を学んでいく。

テーマ④ 科学・技術・経済・産業

12回 自然を見る目を養う (生態学の基礎)

可知直毅(首都大学東京 理学部生命科学科教授)

東京の多様な自然に対する科学的な理解を深めるため、生態学の基礎を幅広く学ぶ。具体的には、生物多様性の意味や保全の取組、生態系の持続可能性や外来生物の問題など具体例を取り上げ、フィールドワークも交えて学部及び一部大学院レベルの生態学の基礎を習得する。

12回 日本社会と経済

山崎志郎(首都大学東京 経営学研究科客員教授)

近世から現代までの日本の経済と社会を概観する講義であり、江戸時代から近現代の都市形成、企業社会、経済政策などを学ぶ。時代を大きく変える変革期を中心に12の重要な事件・事象を選び、その背景、経過と結果について概観する。併せて、都内の各種博物館などを利用し、原資料を読み、時代像を構想する授業も予定している。

アドイショナル科目

12回 実践英語

高野一良(首都大学東京 大学教育センター教授)

最新のニュースなどを題材に、英語で書かれた文章を速読し、大意を把握する能力の向上を目指す。具体的には、詳細な精読や文法解析にこだわることなく、できるだけ速く、できるだけ正確に英語で書かれた文章のテーマや大意について把握する能力を身に付けることを目標とする。

12回 パソコン技術

永井正洋(首都大学東京 大学教育センター教授)、伏木田稚子准教授、澄川靖信助教、藤吉正明准教授、畠山久助教

パソコンやネットワークシステムに係る基本的な知識や考え方を身に付けるとともに、それらの使い方に習熟することを目的とする。具体的には、タイピング・文書編集や、基本的な表計算、プレゼンテーション資料の作成・発表などについて、段階的に理解・習熟していく。授業はアシスタントとなるスタッフを活用するなど、きめ細かいフォローの下、実施する予定。

科目等履修(学部生と同じ授業を受講可能)

科目等履修(全学共通科目) (TMUプレミアム・カレッジ)

各科目担当教員

首都大学東京の科目等履修として開放されている、全学共通科目について、一定の制限の下、受講することが可能。授業回数は学部の回数(半期15回)に準じる。

- カレッジ生1人当たり、前後期各1科目、合計2科目(又は通年1科目)を上限に受講可能
- 一科目当たりの上限人数あり(重複の場合は抽選)
- 対象科目は、科目等履修により開放されている科目のうち、全学共通科目

夏季・春季等集中講座

夏季・春季休業期間中などに実施する、短期集中型の講座

短期 東京農業の今とこれから

公益財団法人東京都農林水産振興財団

「東京農業の今とこれから」をテーマに、東京農業の特徴や研究開発の最前線を学ぶ。具体的には、バラエティ豊かな東京農業の現状、伝統ある江戸東京野菜、東京オリジナル品種、ICTを活用した先端的生産システムなどについて、東京都農林総合研究センターの研究施設のフィールドワークも織り交ぜた授業を展開する。現場で活躍する研究員からの講義などにより、東京農業への理解を深めていく。

短期

東京の「離島」を学ぶ (現地フィールドワーク：宿泊付)

可知直毅(首都大学東京 理学部生命科学科教授)

多様な成り立ちを有し、それぞれ個性あふれる生態系を有する東京の離島(伊豆大島など)の自然、社会、文化について、合宿形式のフィールドワークで学ぶ。2019年度は、椿まつりの期間中(2月)に伊豆大島にて実施予定。

※受講者は、別途、交通費・宿泊料などをご負担いただきます。希望者が定員を超えた場合は、抽選になります。この講座は、本学が別途実施する社会人向け講座との合同開講の予定です。

短期

江戸・東京の建築文化に触れる (フィールドワーク)

山田幸正(首都大学東京 都市環境学部建築学科教授)

江戸東京博物館(墨田区)、江戸東京たてももの園(小金井市)、下町風俗資料館(台東区)などについて、詳細な解説付きで見学することで、江戸東京の建築文化の理解につなげる。

短期

東京下町探訪 ～谷根千のまち歩き発見～

山田幸正(首都大学東京 都市環境学部建築学科教授)

谷中、根津、千駄木周辺地区の見どころを、受講生が事前にそれぞれ検討・提案し作成した「ベストルート」などに基づき、実際に現地を歩いてみることで、当該地区のまちや文化などへの理解を深める。

※その他講座も今後、追加予定

特別講演会

2ヶ月に1回程度実施を予定している、著名者・研究者による講演会(1回1日)
なお、特別講演会は、首都大学東京の学部生なども参加可能とする予定。

人類は日本へ何時どのように たどり着いたのか(渡航手段の実験研究)

山田昌久(首都大学東京 人文社会学部人文科学歴史学・考古学教室教授)

○800万年前に地球に現れた人類は、原人の段階に東アジアまでたどりついたが、近年の研究では新人段階になった4万年前頃にアジアの大陸から日本列島・オーストラリアに移動して生息するようになったことが分かっている。その渡航ルート・渡航手段について、現在、実証・実験を展開している。

○現在、首都大学東京構内で4万年前の石斧を復元して丸木舟を製作しており、今後、丸木舟を使った渡航実験を計画している。本研究内容はNHKスペシャルでも紹介されている。

※その他企画の詳細は、別途周知予定

ゼミナール担当教員（予定）からのメッセージ

Message

カレッジ生とともに、ゼミナールで学ぶ担当教員（予定）からのメッセージです。

首都大学東京が誇る強力な教授陣が皆さまの学びと交流をサポートいたします。

西村 和夫

首都大学東京学長特任補佐
(TMUプレミアム・カレッジ長)



専門はトンネル工学・地盤工学など。首都大学東京では、学部長や副学長などを歴任。2012年に内閣府第10回産学官連携功労者表彰国土交通大臣賞受賞。国土交通省の技術小委員会トンネル分野会議・座長を2017年から務めるなど、学会・国、自治体審議会などの委員を多数務める。

TMUプレミアム・カレッジのゼミナールでは、プレミアム世代の皆さんの多様な経験を活かしながら、立場や見方が異なる仲間と意見を交換し、さらなる人間性の豊かさを積み重ねていけるような場にしたいと考えています。研究テーマは皆さんが自ら考えますが、入学してからテーマを考えることのお手伝いもいたします。テーマの分野に制限はありませんが、工学的視点を加味しながら皆さんと共に議論を深めたいと思います。皆さんの積極的な参加をお待ちしております。

山田 昌久

首都大学東京 人文社会学部人文学科
歴史学・考古学教室教授
(首都大学東京 特任教授)



専門は考古学。旧石器時代から江戸時代の遺跡調査、民俗誌考古学・実験考古学によって生活文化史を研究している。最近3~4万年前の人類の日本列島到達研究が、NHKスペシャルで取り上げられている。日本考古学協会理事や全国の遺跡調査指導委員・国史跡の整備委員会委員を務める。

私は日本文化を世界史の中で考えようと、ロシア・韓国・中国・香港・ベトナム・エジプトなどで遺跡調査・民族誌調査を行ってきました。特に「日本人と木(植物)の文化」の形成過程を追及してきました。歴史・文化の学びからは、日本・東京を知る鍵が沢山見いだせます。たとえば、「七夕」というのは、古墳時代に伝わった棚の上に各部材を組んだアジアの「棚機(たなばた)」、牽牛・織女のいいつたえに起源があります。雅楽の「琴や笙」は中国の戦国~漢代の王墓に残された楽器にその原型があります。入り組んだ谷と利根川・荒川の氾濫する地で行われた江戸の町づくりは、大胆な空間計画と土地改造で達成されました。皆さんと学ぶ日本・東京の文化や歴史には、教科書には無い沢山の事実が潜んでいるでしょう。

可知 直毅

首都大学東京
理学部生命科学科教授
(首都大学東京 特任教授)



専門は植物生態学・保全生態学・島しょ生態学。2016年から2年間、日本生態学会の会長を務めた。小笠原諸島世界自然遺産地域科学委員、環境省生物多様性民間参画ガイドラインの策定に関する検討会座長、東京都環境審議会委員を務めるなど、環境行政にも貢献している。

東京都は都市域や近郊に加えて、多摩地域や伊豆諸島、世界自然遺産に登録されている小笠原諸島など、多様で豊かな自然にも恵まれた世界でもめずらしい首都です。東京都の自然を生態学的な視点から学び、体験することを通して、持続可能な人と自然の共生のあり方について、皆さんと共に考えたいと思います。生態学は多様性の学問です。多様なバックグラウンドのカレッジ生が集うことを期待しています。

東 秀紀

首都大学東京
オープンユニバーシティ特任教授
(首都大学東京 特任教授)



観光学、建築学、まちづくりを首都大学東京の教授として教鞭をとる傍ら、「東京駅の建築家辰野金吾伝」「アガサ・クリスティーと大英帝国」などの小説、評論を発表。歴史文学賞、日本建築学会文化賞受賞、日本推理作家協会賞最終候補。NHK-BSテレビ「英雄たちの選択」などに出演。

ぼくは皆さんと同じシニア層です。退職したら、あれもやろう、これもやろうと楽しみにしてきましたが、今回皆さんとご一緒できることとなり、また楽しみが増えました。担当は「江戸・東京まちづくり物語」。まちづくりの歴史を、物語形式で「人間」中心にみながら、暮らしや文化まで含んで未来まで考えようという試みです。我ながら壮大すぎて心配ですが、そこは楽しく皆さんに助けられながら、何とかやっていきましょう！

山田 幸正

首都大学東京
都市環境学部建築学科教授
(首都大学東京 特任教授)



専門は日本建築史、東洋建築史、保存。2004年 UNESCO Asia-Pacific Heritage Conservation Awards を受賞。文化庁文化審議会世界文化遺産部会委員や、日本イコモス国内委員会理事などのほか、地中海学会の常任委員を務めるなど、世界をフィールドに幅広く活躍中。

世の中では「人生100年時代」とか「生涯現役」と言われています。皆さんはこれまで家族のため、会社のために考え、研鑽を積み努力されてきたと思います。どうでしょう、これからの人生は、これまでの経験やノウハウをベースにしながら、自分のために自分で考えて行動してみたら。そのためにももう一度、大学という場に身を置き、これまで知らなかった、知ろうとしなかったことにも向き合い、いろいろな興味や関心をもった仲間と語り合うことで、「次」がみえてくるのではないのでしょうか。私の専門は建築史ですので、古建築や伝統的町並みに秘められた「時間を宿した空間」を再発見し味わうための見方・楽しみ方をお話しましょう。文化的感性を磨き、建築や都市にみられる豊かさを活かせるようなクリエイティブな人材となることもひとつの選択肢ではないのでしょうか。我々とともに、時代の転換を感知し、行動をおこしてほしいと思います。

※担当教員の所属は2018年9月現在のものです。カッコ内の所属については、2019年4月以降の所属(予定)となります。

TMUプレミアム・カレッジでの学生生活について

College Life

TMUプレミアム・カレッジでは、充実したキャンパスライフを送っていただくため、カレッジ生専用のラウンジ、ロッカー室などの新たな施設整備を行い学習環境の充実を図っているほか、学食や図書館、情報処理教室（パソコンルーム）といった学内施設の利用も可能です。

また、学部生などが対象となる都内の一部美術館などの割引などを受けることもできます。

| 受講料（授業料）について

年額20万円（前期・後期に分けて納付予定）

※入学金はありません。

| 学生証（Student Card）

○カレッジ生には、学生証（Student Card）を交付します。

○Student CardにはIC機能が搭載されており、図書館への入場などが、ゲートへのタッチで可能となります。



※イメージ

| 専用ラウンジ

○南大沢キャンパス内に、カレッジ生専用のラウンジを新たに整備します。

○ラウンジには、ミーティングスペースや自習のためのスペース、憩いのスペースを設け、カレッジ生の学びと交流を深めていただくことができます。



※イメージ

| 専用ロッカー

○ラウンジと併せ、カレッジ生一人ひとりにロッカーを貸与します。

○教材や研究関係資料などを保管し、キャンパス内での効果的な学習をお手伝いします。



※イメージ

| 図書館利用（南大沢キャンパス）

○首都大学東京の有する充実した図書館を活用することにより、カレッジ生の学びをサポートします。

○南大沢キャンパスのほぼ中央に位置し、約70万冊を数える蔵書のほか、「水野家文書」など貴重な古文書も収蔵。電子資料の提供や文献情報検索ツールを整備しているほか、ラーニング・commons※を有し、多様な学習スタイルに対応しています。

※ラーニング・commons… 仲間で集い、議論し、ともに学ぶための自主的な学習を支援する場のこと。



| 情報処理教室（パソコンルーム）

○情報教育授業やパソコンを活用する授業が行われるほか、授業時間以外の開室時間帯は、自習に利用できます。

○新たに、カレッジ生優先のスペースも整備し、情報処理環境の充実を図っています。



| AVライブラリー

○映画・音楽などのDVD、ビデオ、CDを視聴したり、外国語教材を利用することができます。



その他（カレッジ生に対する主な支援等）

事項	概要	備考
首都大学東京オープンユニバーシティ会員への加入	○カレッジ生は、自動的に首都大学東京オープンユニバーシティの会員となります。 ○首都大学東京オープンユニバーシティの講座受講についても、会員価格での受講が可能です。	首都大学東京オープンユニバーシティについての詳細は、P.29を参照
公益財団法人東京都歴史文化財団の管理する都立文化施設	○首都大学東京学部生等と同様、都立の美術館・博物館の展覧会等が無料・割引で観覧可能です。	
メールアドレスの付与	○カレッジ生一人ひとりに、大学のメールアドレスを付与いたします。	
パソコンの貸し出し	○カレッジ生に対して、AV棟でノートパソコンの貸し出しが可能です。	
学内の情報処理システムの利用	○授業の課題提出などを学内のシステム上で実施するなど、充実したICT環境の下で学ぶことができます。	※必修科目において、利用方法に係る講義や演習を行います。
学生教育研究災害傷害保険（学研災）	○学生（カレッジ生）が教育研究活動中に被った災害に対して必要な給付を行う制度です。	

※TMUプレミアム・カレッジは、通学定期券・学割の対象外となっています。



TMUプレミアム・カレッジの時間割は、首都大学東京の学部生などと同じ時期（冬以降）に決定する予定ですが、授業は、4限（14:40～）、5限（16:20～）を中心に、一部3限（13:00～）などを組み合わせた形で予定しています。以下はTMUプレミアム・カレッジでの過ごし方（時間割）のイメージとなります。

《カレッジ生の過ごし方イメージ（一例）》※あくまでイメージです。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1限 8:50～10:20			選択科目Bの フィールドワーク で現場見学※1		
2限 10:30～12:00				アディショナル科目 （学部生と 同じ授業を受講）	
昼休み	カレッジの 仲間と学食で 昼食			仲間と 学内フレンチ レストランで食事	
3限 13:00～14:30	ラウンジで 仲間とゼミナール の打合せ			選択科目C	図書館で授業の 調べもの
4限 14:40～16:10	前期ゼミナール	選択科目A		選択科目D	
5限 16:20～17:50		選択科目B			

※1…週のうち1日は授業を実施しない曜日を設定し、各授業で実施するフィールドワークの実施日とする予定です。

（各講座で開催日を調整し、実施する予定です）

※上記はあくまで、「過ごし方の一例」の「イメージ」となります。実際の時間割などと異なる場合がありますので、ご了承ください。

※カレッジ生の希望により、さらに受講科目を追加することも可能です。

（各科目履修の上限などの詳細はP.26をご参照ください。）

キャンパス紹介 (首都大学東京 南大沢キャンパス)

Campus

キャンパス紹介



1 1号館



3階建ての教室棟です。首都大学東京のシンボルである、光の塔があります。本カレッジの授業教室として、使用する予定です。

2 講堂



首都大主催の行事、学生・教職員の研究教育活動の場として使用。約1,200席の大ホールをはじめ、リハーサル室や控室も完備しています。

3 2号館



TMUプレミアム・カレッジ専用ラウンジ、事務局がある建物です。

4 6号館



1階建てと4階建ての2つの建物からなる教室棟です。本カレッジの授業教室として、使用する予定です。

5 AV棟



2階建ての、視聴覚設備を備えた3教室とAVライブラリー(映画・音楽などを視聴したり、外国語教材が利用可能な部屋)のある施設です。

6 生協購買書籍部



書籍・文具など学習に必要なアイテムが揃います。コンビニも併設されており、学生生活には欠かせない施設となっています。

7 生協食堂



定食ばかりでなく、好みに合わせてセレクトできるリーズナブルな単品メニューが豊富。レシートにはカロリーが表示されます。

8 図書館本館



図書館本館では、約70万冊を数える蔵書のほか、「水野家文書」など貴重な古文書も収蔵しています。

9 情報処理施設



情報処理教室では、情報教育授業やパソコンを活用する授業が行われます。

10 国際交流会館



建物の中には、フレンチレストラン「ルヴェソン ヴェール南大沢」があります。

11 8号館 12 9号館



理系エリアにある8号館は8階建て、9号館は9階建ての建物です。理学部と都市環境学部の施設です。本カレッジの授業教室として、使用する予定です。

13 11号館



理系エリアにある3階建ての教室棟です。出入口の反対側に調整池があります。本カレッジの授業教室として、使用する予定です。

14 12号館



理系エリアにある2階建ての教室棟です。本カレッジの授業教室として、使用する予定です。





TMUプレミアム・カレッジ 年間スケジュール(予定)

Schedule

2018年度

1月	カレッジ生入学試験、合格発表	2月 3月	入学手続、事前ガイダンス(予定)
----	----------------	----------	------------------

2019年度

4月	入学式 カレッジ生歓迎パーティ 履修等ガイダンス 前期授業開始	
7月	前期授業終了 前期期末試験(科目等履修)	
8月	夏季休業 夏季集中講座	
9月	夏季集中講座	
10月	後期授業開始 次年度カレッジ生イベント実施・出願受付開始	
11月	次年度カレッジ生イベント実施	
12月	冬季休業(年末年始)	
1月	次年度カレッジ生入学選考及び合格発表 後期授業終了 後期期末試験(科目等履修)	
2月	専攻生(仮称)選考 春季集中講座 成果発表会	
3月	修了式	

※予定は変更となる場合があります。

入学選考について

(2019年度TMUプレミアム・カレッジ生募集概要)
Entrance Examination

出願資格	次の条件を満たしている者 ○2019年3月31日現在、50歳以上の者 (1969年(昭和44年)4月1日以前に生まれた者) ○日本国の高等学校を卒業した者。もしくはそれと同等とみなせる者。 (2019年3月までに卒業見込みの者を含む。)
募集人員	50名程度
出願期間	2018年10月21日(日)～2018年12月4日(火) (12月4日(火)本学郵送必着) ※選考料の納入期限は同年12月3日(月)17時00分まで。 ※出願書類と小論文※1(1,500字以上2,000字以内【目安】)を提出。
選考方法	第一次選考 小論文(事前提出) 第二次選考 面接※2(2019年1月12日(土)実施) ※第一次選考の結果により、第一次選考合格者を決定し、第一次選考結果通知書を送付します。一定の水準に達しない場合は、不合格となります。
選考手数料	10,000円
最終合格者発表	2019年1月25日(金)14時(予定) ※併せて、受験者に第二次選考結果通知書を送付します。
受講料(授業料)	200,000円(年額) ※入学料はありません。

詳細は「2019年度 TMUプレミアム・カレッジ入学選考カレッジ生募集要項」に掲載しています。

2019年度の募集要項は、問い合わせ先(裏表紙参照)にご請求ください。

※1 小論文について

- 小論文のテーマは、「TMUプレミアム・カレッジの志望理由を中心とし、何を学び、仲間とどのような交流をし、その経験をどのように生かしていくか」です。これまでの人生経験や家族・仲間・地域との繋がりを踏まえて、論理的に記述してください。(1,500字以上2,000字以内【目安】)
- 使用する様式、出願方法などの詳細は募集要項に掲載しておりますので、ご確認ください。

※2 面接について

- 第二次選考(面接)は、第一次選考合格者の方を対象に、1人20分程度質疑応答を行います。
- 出願の動機や、入学後の学び方、修了後に学んだことをどのように生かしたいかなどについて、お答えいただきます。

修了(卒業)要件、履修の上限、修了後について

Graduation

修了(卒業)要件

以下のとおり、年間で150時間以上の履修等が要件となります。

〈修了要件の目安〉

区分	科目名・科目分類	修了要件(履修時間等)	
必修科目	前期ゼミナール	18時間	計 150時間
	後期ゼミナール	18時間	
	情報リテラシー基礎	6時間	
選択科目	プログラム科目群	72時間(4科目)	
	教養科目群	36時間(2科目)	
アドイショナル科目	科目等履修、夏季・春季等集中講座など	修了要件には含めない	

※上記に加え、成果発表会における修了論文の発表の実施を要件とします。

修了要件の基本的な考え方

- TMUプレミアム・カレッジでは、単位制を採用せず、履修の時間単位で修了要件を定めています。
- 必修科目、選択科目については、原則1.5時間(90分)の授業を12回実施します。従って、1科目を履修すると、原則18時間履修したことになります。

履修の上限について(履修可能科目数)

選択科目の履修登録の上限はそれぞれ6科目(合計12科目)となります。

区分	履修登録の上限	
選択科目	プログラム科目群	6科目
	教養科目群	6科目
		計 12科目

※アドイショナル科目については、履修登録の上限には含めません。

修了後について

「TMUプレミアム・カレッジ専攻科(仮称)」への進学

2020年度より、TMUプレミアム・カレッジ専攻科(仮称)を開設する予定です。充実した環境の下、仲間とともに引き続き学び続けることが可能です。進学には、選考を実施する予定です。

その他修了後の活動について

本カレッジでの学びを生かし、地域でのボランティア活動への参加や、首都大学東京の学部や大学院への進学などが考えられます。

Q&A(よくあるご質問・回答)

Question and Answer

多くの方からお寄せいただいているご質問への回答を掲載しています。

Q1

開講記念イベントには参加できませんが、入学選考には影響ありませんか。

開講記念イベントへのご参加の有無は、入学選考には一切影響いたしません。より多くの方にTMUプレミアム・カレッジの魅力などを知っていただくための機会の一つです。お時間がございましたら、ぜひご参加ください。

Q2

TMUプレミアム・カレッジは通学定期券・学割の対象となりますか。

TMUプレミアム・カレッジは通学定期券・学割の対象とはなりません。

Q3

首都大学東京のどのキャンパスに通うのでしょうか。

南大沢キャンパス(八王子市)に通っていただきます。

Q4

出願資格が「高等学校を卒業した者」とありますが、大学を卒業した人は資格があるということで良いのでしょうか。

大学卒業、大学院修了の方ももちろん出願資格を有します。

Q5

在学期間は1年とのことですが、もっと学びたい。1年で卒業しなければならないのですか。

1年の在学期間を修了した方が、もう一年学べるための制度として、2020年度より「TMUプレミアム・カレッジ専攻科(仮称)」を設置する予定です。詳細は改めてお知らせさせていただきます。

Q6

TMUプレミアム・カレッジを修了すると、大学院の入学資格が得られるのですか。

TMUプレミアム・カレッジを修了すると、学校教育法に基づく履修証明が交付されますが、学位を取得することはできません。大学院などへの進学をご希望の場合は、所定の大学院入学試験などに合格する必要があります。詳細は、事務局にご相談ください。

【参考】首都大学東京について

About Tokyo Metropolitan University

首都大学東京は、首都東京の大学にふさわしい人材育成や研究を行うことで大都市が抱える様々な問題の解決に貢献することなどを目的に、2005年4月に東京都立大学など都立の4大学を再編統合し、開学しており、現在約9,000人の学生が学んでいます。

首都大学東京の使命

「大都市における人間社会の理想像の追求」

基本的な目標

世界有数の大都市である東京都が設置する総合大学として、グローバル社会を生き抜く「本物の考える力」を持った人材を輩出するとともに、基礎的な学問分野及び大都市課題を始めとする先端的課題を共に深く追及することにより、卓越した研究と質の高い教育の好循環を実現することを目指す。

所在地

- 南大沢キャンパス(八王子市南大沢)
- 日野キャンパス(日野市旭が丘)
- 荒川キャンパス(荒川区東尾久)



学生数

学生9,086人、教員673人
(学部6,883人、専攻科10人、大学院2,193人)

外国人留学生数

545人
(学部80人、大学院332人、その他130人)

学部等構成

学部	大学院
人文社会学部	人文科学研究科
法学部	法学政治学研究科
経済経営学部	経営学研究科
理学部	理学研究科
都市環境学部	都市環境科学研究科
システムデザイン学部	システムデザイン研究科
健康福祉学部	人間健康科学研究科
	専攻科
	助産学専攻科

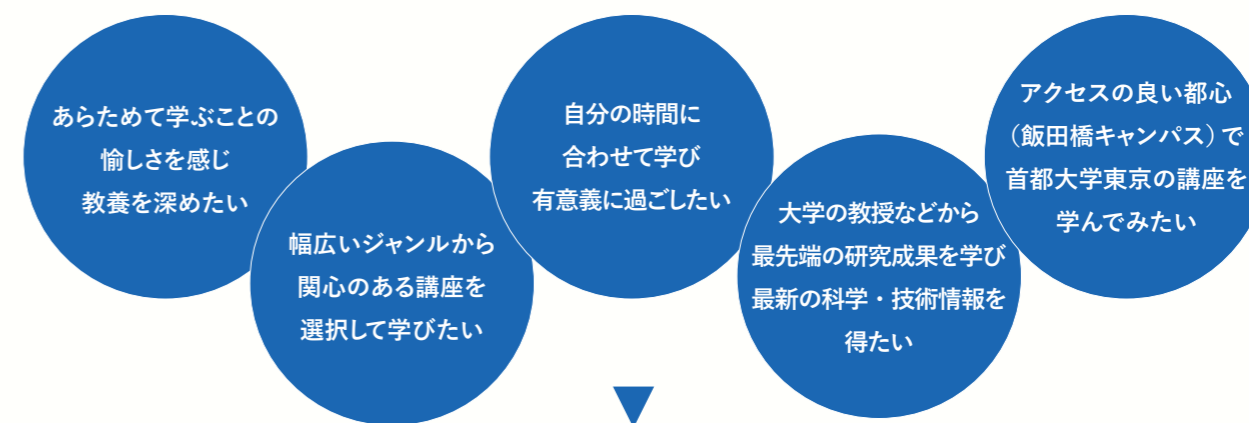
※学生数、教員数及び外国人留学生数は2018年5月1日現在

【参考】首都大学東京の生涯学習教育の取組

Match of Lifelong Education

首都大学東京では「TMUプレミアム・カレッジ」のほかに、「首都大学東京オープンユニバーシティ」として、一般教養から最先端の研究成果まで幅広い分野から受講できる仕組みや「科目等履修生」として大学講義の受講など、首都大学東京が有する豊かな教育研究資源を活用した学習が可能です。

例えば、こんな方におすすめです



首都大学東京オープンユニバーシティ

概要

- 有料(一部無料)で、日本や世界の文化、社会について学び考える一般教養講座から最先端研究の成果を学ぶ講座まで、幅広い公開講座を1講座から受講することができます。
- 年間約300講座という、非常に多彩で幅広い講座を提供しています。



会場

- 首都大学東京飯田橋キャンパス 他
(東京区政会館3階)

その他

- 講座の申込には入会が必要です。(入会金3,000円)
- 詳細は、webサイトをご参照ください。
<https://www.ou.tmu.ac.jp/web/>

※さらに、大学院入学や学士入学、科目等履修など、生涯を通じて首都大学東京で深く充実した学びを行うことも可能です。

- 首都大学東京 大学・大学院の入試案内はwebサイトをご参照ください。
<https://www.tmu.ac.jp/entrance.html>